

共同生活援助事業所 悠炉里 令和8年度 第2回地域連携推進会議 議事録

開催日時：令和8年5月17日 日曜日 15時～16時

1. 開催場所：悠炉里スカイハイツ 大広間

2. 出席者：利用者代表 大平裕也氏
利用者家族代表 池田イミ氏
地域代表 北村和豊氏
福祉知見者 荒木美枝子氏
市町村福祉担当者 氏原巧氏
施設職員（事務局） 志賀俊紀（施設長）
井村一美・大場康生（サービス管理責任者）
井上翼（副主任）

3. 会議内容

① 施設長より

施設は地域の中に存在するものであり、地域の意見を聞きながら同じ歩みで進むことが入所者の地域参加につながるという「地域共生」の理念について説明を行う。

② 自己紹介

参加者による自己紹介

③ 活動報告

・ 共同生活援助事業について

昨年度は共同生活住居を見学する機会となったので、今年度はスライドを用意し事業概要・施設・利用者の状況説明を行った。

・ 3障害について

知的・精神・身体 of 3障害が以前は別々の法律で管理されていた経緯と、それを一つの建物で統合した施設の意味について説明を行う。

・ 自治会活動、奉仕活動について

利用者主体の自治会を運営。忘年会・年祝い等の季節行事の実施を説明し、地域の自治会（全8ホーム）に加入し、清掃活動等に参加。特に権田地区では自治会活動に不可欠な存在として評価されている事を説明する。

- ・余暇活動について
小グループ旅行（利用者4～5名＋職員2名）を年複数回実施。
利用者アンケートで行き先を決定している事、ホーム単位での外食・
外出活動も実施している事を説明する。
- ・自然災害、消防訓練、感染症対策について
昨年度の消防訓練は年2回各住居で行い、避難経路確認・点呼・本部への
連絡。職員は連絡消防への通報訓練を行う。

自然災害では、加津佐公民館を避難所として利用したが、利用者の所在把握
の困難・避難住民への配慮不足等の課題が発生し、事業所内の大広間を避難
先へ指定。各住居にて非常食・備蓄品の管理を定期的に行っている事を説明。

感染症対策では、年4回の感染症対策会議を実施し、昨年度のコロナ・
インフルエンザの感染者数と感染ルートの説明と感染者には個人用体温計・
使い捨て食器等を使用し、拡大防止を徹底した事を説明。

④ 意見交換

（北村さんより）

- ・朝の出勤時に職員の付き添いがなく、移動している利用者のグループ化。
急な坂道を利用者が走って降りる事への安全上について。
（利用者の出発時間の調整と職員が交代で見回りを実施している）

（荒木さんより）

- ・昨年の定員から減少した理由について確認。
（昨年度に複数名が逝去・介護保険施設へ移行したため、
実績に合わせて定員を変更したと説明。）
- ・昨年の住居見学の際、居室の入口にあった段差等の対処について確認。
（昨年の見学時に指摘のあった段差については、フラットに改修済み
であることを説明する。）
- ・暑さ、寒さ対策について確認。
（全居室にエアコンを設置。季節に応じた衣類交換を担当世話人が対応。
畑作業者には空調ベスト、西日が強いホームにはすだれを設置する
など個別対応を実施している）

(氏原さんより)

- ・ 地域交流、福祉教育について確認。

(運動会は加津佐小学校、西有家の防災広場で交互に行っていたが、今年度より屋内体育館での開催に変更。

高校生向け福祉講座を年1回実施(島原半島全域の高校に案内)。

過去に参加者が職員として採用された実績がある事を説明。

夏祭りについて、昨年は地域の方も会場へ来て頂くことが出来た。

今年度は地域住民への招待範囲を広げて開催の検討を説明。)

- ・ 人口減少・職員確保に関して確認。

(行政と法人が連携して都市部からの利用者・職員を受け入れる仕組みづくりの必要性和外国人労働者の活用については、利用者との

コミュニケーション上の課題から現時点では慎重な姿勢を説明。)

(池田さんより)

- ・ 入所している子が一人でバスに乗りイオンへ外出・食事・買い物ができるまでに成長したことへの感謝を伝えられる。

(大平さんより、本人の生活状況の説明が行われた。)

- ・ 外ホームでの一人暮らしに向けた訓練の状況を報告。

4名で協力して夕食と翌朝の弁当作り・洗濯・掃除を行っている事。

一般就労を続けながら自立を目指していると伝えられる。